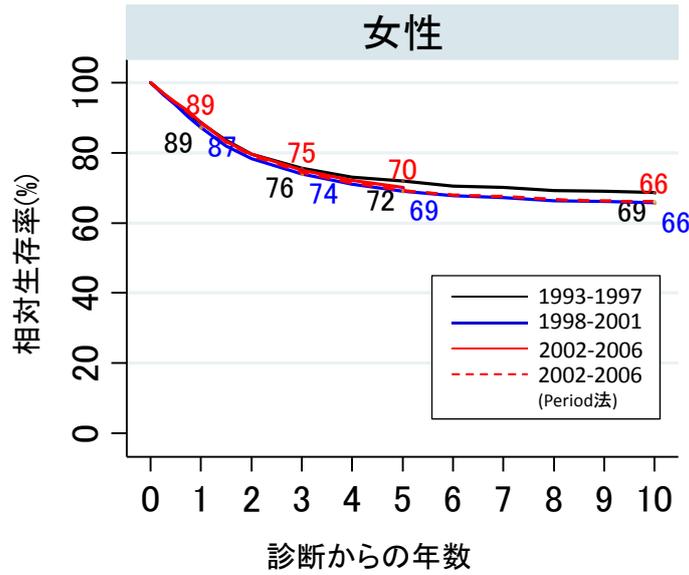


# 子宮頸がん (ICD10: C53)

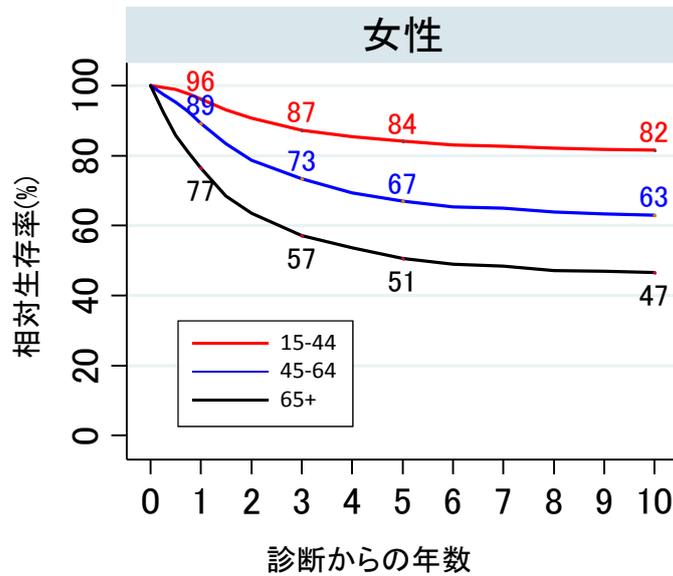
# 10年相対生存率

全患者



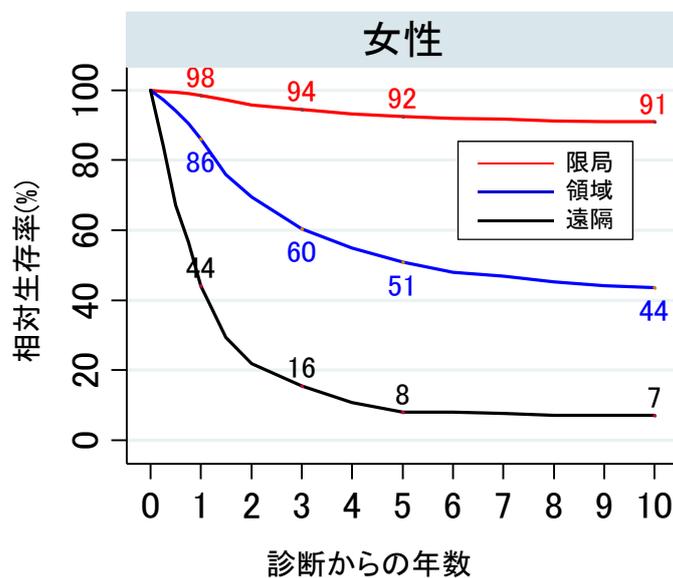
Key Point 1  
子宮頸がんの相対生存率は、1993年以降ほとんど変化が見られない

## 年齢階級別 (2002-2006年のperiod analysisによる生存率)



Key Point 2  
若年者では相対生存率が高く、高齢者では低い

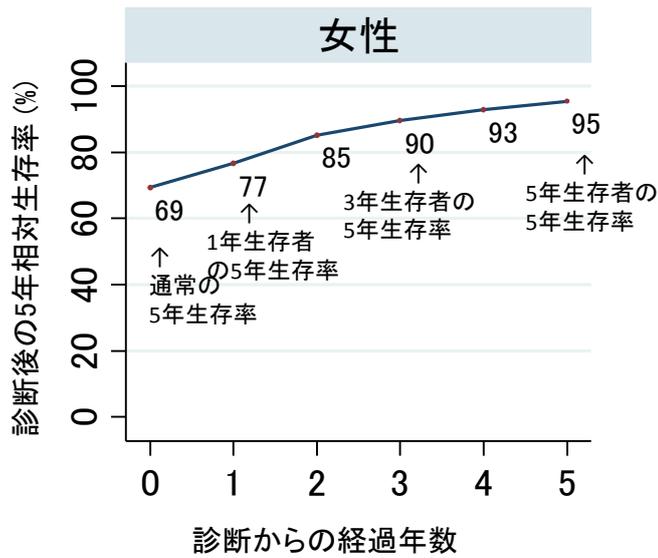
## 進行度別 (2002-2006年のperiod analysisによる生存率)



Key Point 3  
進行度によって相対生存率は大きく異なる

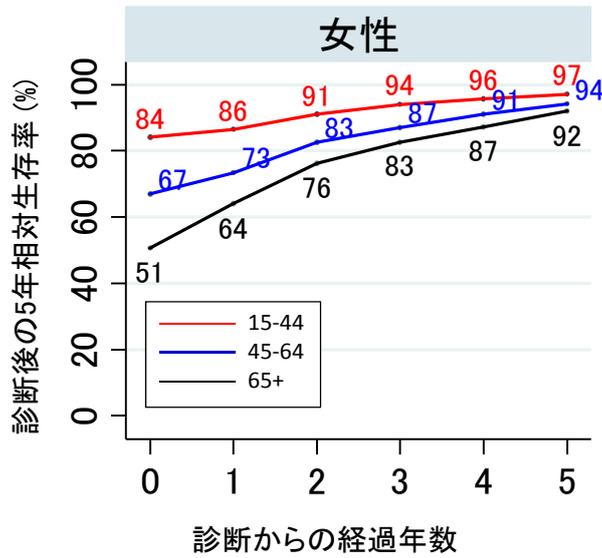
## サバイバー5年相対生存率

全患者



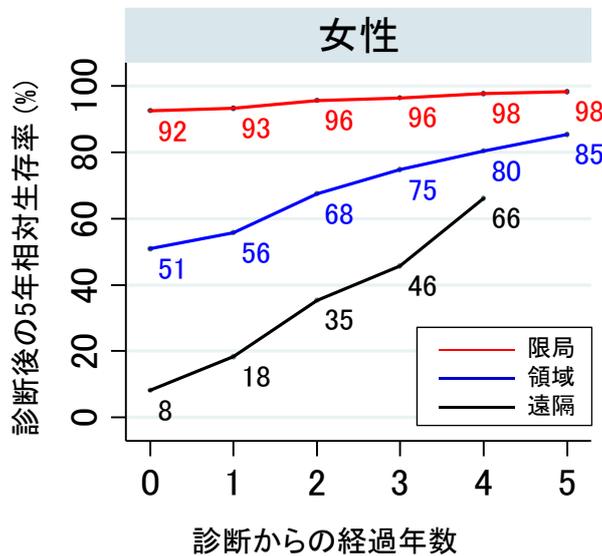
**Key Point 4**  
診断から年数が経過するにつれサバイバー生存率は向上し、診断から5年経過した段階で一般集団とほぼ同じ生存確率に近づく。

年齢階級別



**Key Point 5**  
診断時においては年齢が高いほどサバイバー5年生存率が低いですが、65歳以上の5年生存者におけるサバイバー生存率は他の年齢層のサバイバー生存率とほぼ同等になる。

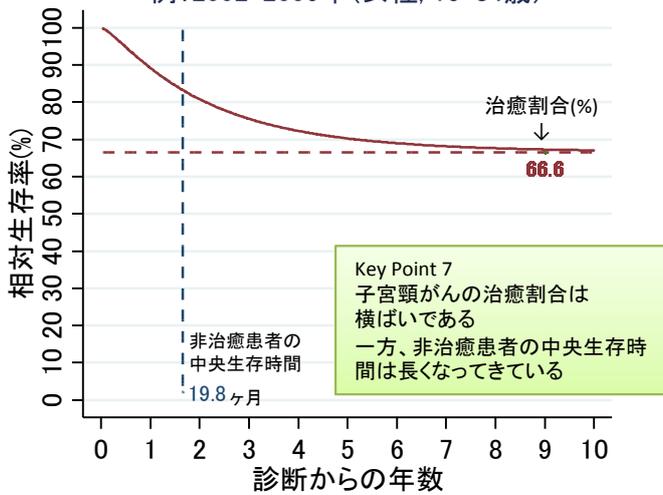
進行度別



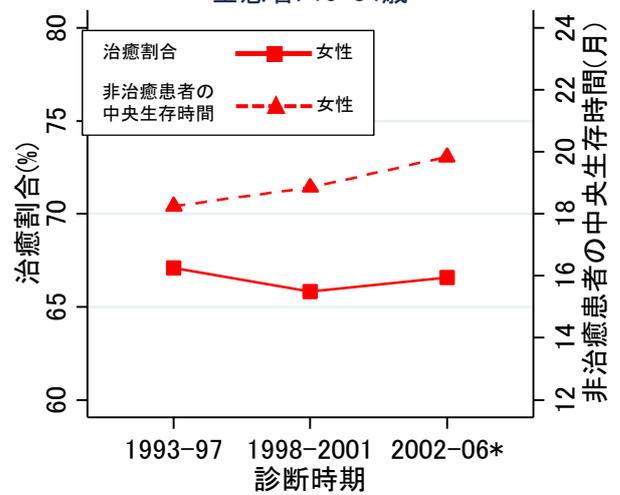
**Key Point 6**  
「領域」や「遠隔」であっても診断からの年数が経過するとその後の5年相対生存率が向上する。

# 治癒割合の推移

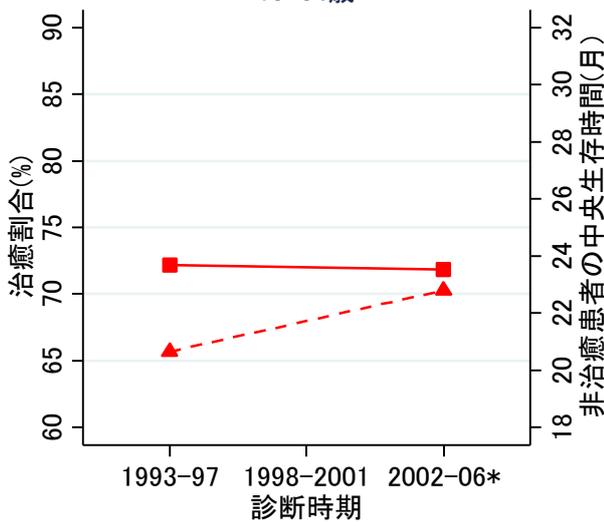
治癒割合のみかた  
例: 2002-2006年(女性, 15-84歳)



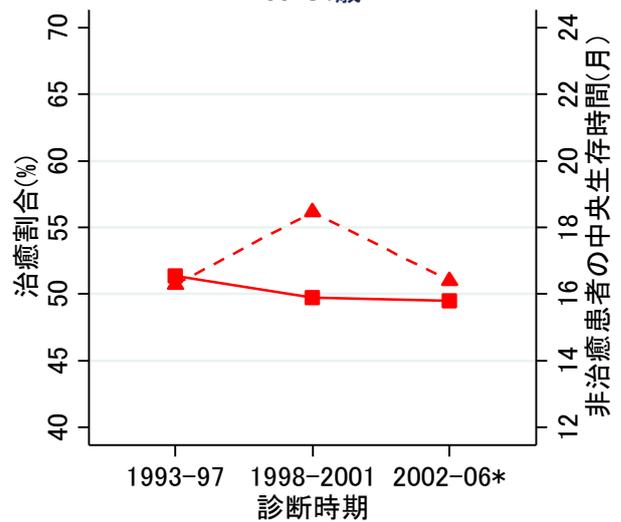
治癒割合と非治癒患者の生存時間の推移  
全患者: 15-84歳



15-64歳

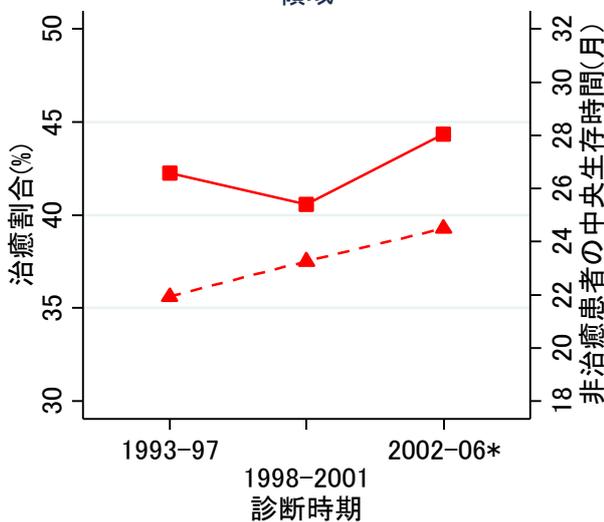


65-84歳

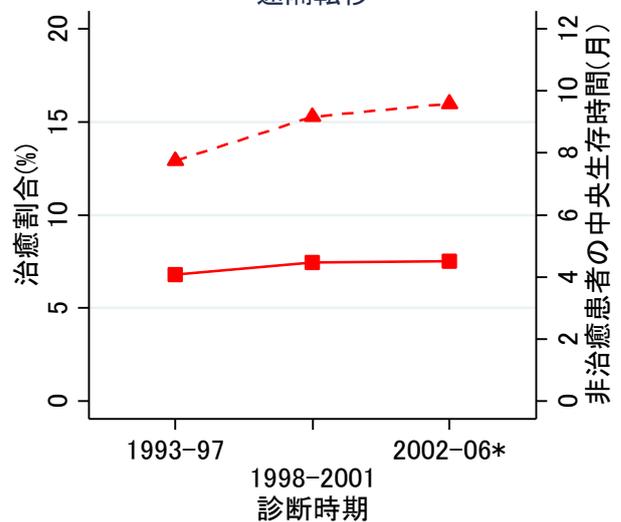


Key Point 9  
「領域」・「遠隔」では非治癒患者の中央生存時間の延長が見られた  
しかし、いずれの進行度においても治癒割合は横ばいである。

領域



遠隔転移



\* 2002-2006年にフォローアップされた患者(period法)

表1. 解析対象者

		Total		1993-1997		1998-2001		2002-2006		2002-2006 (period)	
		N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
女性	全患者	12,909	100.0	4,622	100.0	3,409	100.0	4,878	100.0	5,106	100.0
	年齢階級別										
	15-44	3,897	30.2	1,289	27.9	987	29.0	1,621	33.2	1,703	33.4
	45-64	5,020	38.9	1,817	39.3	1,350	39.6	1,853	38.0	1,939	38.0
	65-99	3,992	30.9	1,516	32.8	1,072	31.4	1,404	28.8	1,464	28.7
	進行度別										
	限局	6,230	48.3	2,265	49.0	1,608	47.2	2,357	48.3	2,484	48.6
	領域	4,346	33.7	1,573	34.0	1,185	34.8	1,588	32.6	1,656	32.4
	遠隔	941	7.3	275	5.9	252	7.4	414	8.5	423	8.3
	不明	1,392	10.8	509	11.0	364	10.7	519	10.6	543	10.6

表2. 1, 3, 5, 10年相対生存率(全患者: 診断時期別、Period法: 年齢階級別進行度別)

		1年相対生存率		3年相対生存率		5年相対生存率		10年相対生存率		
		RS	95%CI	RS	95%CI	RS	95%CI	RS	95%CI	
女性	1993-1997年	全患者	88.6	[87.5-89.5]	75.7	[74.3-77.0]	71.9	[70.5-73.4]	68.8	[67.2-70.3]
	1998-2001年		87.3	[86.0-88.4]	73.9	[72.3-75.5]	69.0	[67.3-70.7]	65.8	[64.0-67.6]
	2002-2006年		88.8	[87.8-89.8]	75.0	[73.7-76.3]	70.3	[68.8-71.6]	-	-
	2002-2006年 (Period法)		88.7	[87.7-89.6]	74.5	[73.1-75.8]	69.3	[67.8-70.7]	66.1	[64.5-67.7]
	年齢階級別									
	15-44		96.2	[95.1-97.0]	87.3	[85.5-88.9]	84.1	[82.0-85.9]	81.6	[79.4-83.6]
	45-64		89.3	[87.8-90.7]	73.4	[71.2-75.4]	67.0	[64.6-69.2]	63.0	[60.5-65.4]
	65-99		76.5	[74.0-78.8]	57.1	[54.1-60.0]	50.6	[47.5-53.7]	46.6	[43.0-50.1]
	進行度別									
	限局		98.5	[97.8-99.0]	94.5	[93.3-95.5]	92.5	[91.1-93.7]	91.1	[89.4-92.5]
	領域		86.1	[84.1-87.8]	60.4	[57.8-63.0]	50.9	[48.1-53.6]	43.5	[40.6-46.4]
	遠隔		44.2	[39.1-49.1]	15.6	[12.0-19.6]	8.1	[5.5-11.2]	7.1	[4.6-10.3]

表3. サバイバー5年相対生存率(Conditional five-year survival)

		診断からの年数		0年		1年		2年		3年		4年		5年		
		RS	95%CI	RS	95%CI	RS	95%CI	RS	95%CI	RS	95%CI	RS	95%CI	RS	95%CI	
女性	全患者		69.3 [67.1-71.4]		76.7 [74.9-78.3]		85.2 [83.7-86.5]		89.6 [88.2-90.8]		92.8 [91.5-93.9]		95.4 [94.2-96.4]			
	年齢階級別	15-44	84.1 [81.2-86.5]	86.4 [84.1-88.4]	91.0 [89.2-92.6]	94.0 [92.3-95.4]	95.7 [94.1-96.9]	97.1 [95.6-98.1]								
		45-64	67.0 [63.6-70.0]	73.3 [70.5-75.9]	82.7 [80.4-84.7]	87.0 [84.8-89.0]	91.1 [89.0-92.9]	94.1 [92.0-95.7]								
		65-99	50.6 [46.1-55.0]	64.0 [59.7-68.0]	76.2 [72.1-79.8]	82.6 [78.2-86.2]	87.2 [82.6-90.7]	92 [86.7-95.2]								
	進行度別	限局	92.5 [90.5-94.1]	93.4 [91.7-94.7]	95.8 [94.5-96.7]	96.5 [95.2-97.4]	97.7 [96.5-98.5]	98.4 [97.2-99.1]								
		領域	50.9 [47.3-54.4]	55.8 [52.3-59.0]	67.5 [64.2-70.7]	74.8 [71.2-78.0]	80.4 [76.7-83.6]	85.5 [81.8-88.5]								
		遠隔	8.1 [5.0-12.0]	18.3 [11.5-26.3]	35.4 [23.1-47.8]	45.6 [28.9-60.9]	66.1 [35.1-84.9]	-								

表4. 治癒割合と非治癒患者の生存時間の中央値(MST: median survival time)の推移

		1993-1997年				1998-2001年				2002-2006年 (Followed-up)							
		分 布	治癒 割合(%)	95%CI	MST (月)	95%CI	分 布	治癒 割合(%)	95%CI	MST (月)	95%CI	分 布	治癒 割合(%)	95%CI	MST (月)	95%CI	
女性	全患者	W	67.1	[65.2-69.0]	18.2	[16.8-19.8]	W	65.8	[63.6-68.0]	18.9	[17.2-20.7]	G	66.6	[64.9-68.3]	19.8	[18.5-21.2]	
	年齢階級別																
		15-64	W	72.2	[70.1-74.2]	20.7	[18.8-22.7]	-	-	-	-	W	71.8	[70.1-73.5]	22.8	[21.2-24.5]	
		65-84	W	51.4	[46.9-55.8]	16.3	[13.8-19.3]	W	49.7	[44.3-55.1]	18.5	[15.1-22.5]	W	49.5	[45.8-53.2]	16.4	[14.5-18.5]
	進行度別	限局	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		領域	W	42.2	[38.9-45.6]	21.9	[20.0-24.1]	L	40.6	[36.0-45.4]	23.3	[20.2-26.8]	W	44.3	[41.4-47.4]	24.5	[22.7-26.5]
	遠隔	G	6.8	[3.7-12.1]	7.8	[6.5-9.3]	W	7.4	[4.1-13.1]	9.2	[7.5-11.2]	G	7.5	[5.0-11.2]	9.6	[8.5-10.8]	

W: Weibull, L: Log-normal, G: Gamma

## Key Point 解説

愛知県がんセンター研究所 疫学・予防部 細野 覚代

## 10年相対生存率

## Key Point 1

子宮頸がんの相対生存率は1993年以降ほとんど変化が見られない。

従来の子宮頸がん治療は手術療法と放射線治療が中心であった。2000年ごろより同時化学放射線療法が導入され、術前化学療法が試みられるなどより積極的な治療が行われているが、1993年以降相対生存率は横ばいである。5年相対生存率は約70%であり、診断から5年以降の相対生存率は横ばいである。

2007年に日本婦人科腫瘍学会より「子宮頸がん治療ガイドライン」初版<sup>1)</sup>が発行され、子宮頸がんの適正治療の提供と治療レベルの施設間差を少なくするための試みが行われている。生存率の変化は今後明らかになってくるかもしれない。

## Key Point 2

若年者では相対生存率が高く、高齢者では低い。

15-44歳の若年者と比べて、45歳以上では進行例が多く、相対生存率が低い可能性がある。さらに65歳以上の高齢者では若年者に比べて全身状態が悪かったり、併存症のため積極的治療が控えられている可能性もある。

## Key Point 3

進行度によって相対生存率は大きく異なる。

「限局」の場合、5年相対生存率は92%と予後良好であるが、「領域」では44%、「遠隔」では7%であり、「遠隔」の予後は不良である。

## サバイバー5年相対生存率

## Key Point 4

診断から年数が経過するにつれサバイバー生存率は向上し、診断から5年経過した段階で一般集団とほぼ同じ生存確率に近づく。

子宮頸がん全患者の診断時における5年相対生存率は69%であるが、1年生存者のその後の5年生存率（サバイバー5年生存率）は77%、2年生存者のサバイバー5年生存率は85%と次第に向上する。5年生存者では95%となり、一般集団とほぼ同じ生存確率に近づく。

## Key Point 5

診断時には年齢が高いほどサバイバー5年生存率が低いが、65歳以上の5年生存者におけるサバイバー生存率は他の年齢層のサバイバー生存率とほぼ同等になる。

診断時の5年相対生存率は若年で高く、高齢者で低い。しかし5年経過した時点のサバイバー5年生存率では65-99歳は92%となり、他の年齢層の生存確率とほぼ同等になる。

## Key Point 6

「領域」や「遠隔」であっても診断からの年数が経過するとその後の5年相対生存率が向上する。

「限局」だけでなく、「領域」や「遠隔」であっても、診断からの年数が経過するとその時点からの5年相対生存率が向上する。

「遠隔」であっても診断から4年経過するとその後の5年相対生存率は66%になる。

**治癒割合****Key Point 7**

子宮頸がんの治癒割合は横ばいである。一方、非治癒患者の中央生存時間は長くなってきている。

子宮頸がん全患者の治癒割合は横ばいで約67%である。一方、非治癒患者の中央生存期間は1993-97年で18.2ヶ月、1998-2001年で18.9ヶ月、2002-06年は19.8ヶ月と長くなってきている。化学療法等の進歩により治癒はしないが、生存期間が延びた可能性や、2004年から子宮頸がん検診の対象年齢引き下げによるリードタイムバイアスの可能性もある（Key point 8 参照）。

**Key Point 8**

若年者では非治癒患者の中央生存時間の延長が見られたが、高齢者では横ばいである。治癒割合は年齢にかかわらず横ばいである。

15-64歳の非治癒患者の中央生存期間の延長は治療の進歩や2004年から子宮頸がん検診の対象年齢引き下げによるリードタイムバイアスの可能性もある。しかし、65歳以上の高齢者は治療の進歩の恩恵を十分に受けられていない可能性がある。治癒割合は年齢にかかわらず横ばいである。

**Key Point 9**

「領域」・「遠隔」では非治癒患者の中央生存時間の延長が見られた。しかし、いずれの進行度においても治癒割合は横ばいである。

「限局」の治癒割合が90%を超えるのに対し、「領域」では40-45%、「遠隔」では7%程度である。非治癒患者の中央生存期間は「限局」では約29ヶ月で横ばいであるが、「領域」では21.9ヶ月から24.5ヶ月に改善している。同様に「遠隔」でも7.8ヶ月から9.6ヶ月に改善傾向にある。

**文献**

- 1) 日本婦人科腫瘍学会・編：子宮頸癌治療ガイドライン 2007年版. 東京：金原出版, 2007.